

# HP SiteScope

ソフトウェア・バージョン :11.30

## SiteScope の新機能

ドキュメント・リリース日 :2015 年 1 月  
ソフトウェア・リリース日 :2015 年 1 月



## ご注意

### 保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© Copyright 2005 ~ 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

Adobe<sup>®</sup> および Acrobat<sup>®</sup> は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Intel<sup>®</sup>、Pentium<sup>®</sup>、および Intel<sup>®</sup> Xeon<sup>®</sup> は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

iPod は Apple Computer, Inc. の商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

Microsoft<sup>®</sup>、Windows<sup>®</sup>、Windows NT<sup>®</sup>、Windows<sup>®</sup> XP は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

UNIX<sup>®</sup> は The Open Group の登録商標です。

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別番号が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント・リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェア・リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース日を示します。

最新の更新情報をチェックする、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかを確認するには、<https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=> にアクセスしてください。

このサイトにアクセスするには HP Passport アカウントが必要です。まだお持ちでない場合は、HP Passport サインインのページで **[アカウントの作成]** ボタンをクリックしてください。

## サポート

次の HP Software Support Web サイトにアクセスしてください：<https://softwaresupport.hp.com>

この Web サイトには、連絡先情報と、HP Software が提供する製品、サービス、サポートについての詳細が記載されています。

HP Software Support は、お客様による自己解決機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HP ソフトウェア・サポート Web サイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート・ケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア・カスタマーとの意見交換
- ソフトウェア・トレーニングの検索と登録

サポート領域の多くで、HP Passport ユーザとして登録してサイン・インすることが要求されます。また、多くの場合、サポート契約も必要となります。HP Passport ID を登録するには、<https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして **Register** をクリックしてください。

アクセス・レベルの詳細情報については、次の URL を参照してください。  
<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

## HP Software Solutions & Integrations およびベスト・プラクティス

今すぐ <https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp> の HP Software Solutions にアクセスして、HP Software カタログの製品を併用する仕組みを確認し、情報を交換し、ビジネス上のニーズを解決してください。

<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw> の Cross Portfolio Best Practices Library にアクセスし、さまざまなベスト・プラクティスのドキュメントやマテリアルをご覧ください。

# SiteScope 11.30 の新機能

このガイドでは、HP SiteScope 11.30 の新機能と強化に関する情報を提供します。

お客様からのフィードバックによる修正事項と内部のバグ修正については、[SiteScope 11.30 リリース・ノート](#)を参照してください。

SiteScope のこれまでのバージョンにおける新機能と拡張機能については、[HP ソフトウェア・サポート・サイト](#)を確認してください。

## ライセンスおよびパッケージ

- SiteScope によるライセンス付与モデルがポイントベース・モデルから容量タイプ・モデルに変更されました。容量タイプ・モデルでは、一部のモニタにおけるオペレーティング・システム・インスタンス (OSi) 数、URL タイプのモニタ数、VuGen スクリプトを実行するモニタのトランザクション数がカウントされます。使用できるライセンスの容量タイプは、インストール・タイプおよび利用している SiteScope のエディションによって異なります。
- SiteScope は次のエディションで利用できるようになりました。
  - **コミュニティ**: 無償エディションで、無制限の使用期間にわたり SiteScope の制限された機能を使用できます。コミュニティ・エディションは、通常の SiteScope インストールの実行後すぐに利用できます。ご利用の SiteScope エディションをいつでもアップグレードして、初期デプロイメントの監視機能を拡張したり、SiteScope で提供されるすべての機能を活用したりできます。
  - **トライアル**: 無償の 1 回だけの試用版ライセンスで、30 日間にわたり SiteScope のすべての機能を使用できます。
  - **プレミアム/アルティメット**: SiteScope のすべての機能 (統合、SiteScope API、SiteScope フェイルオーバー、エンタープライズ・モニタおよびテンプレートの使用など) を使用できます。
  - **システム・コレクタ**: SiteScope モニタを HPOM アプリケーション上で使用可能にする HP Operations Manager Integration とともに提供される SiteScope のバージョンです。
  - **ロード・テスト**: SiteScope モニタを LoadRunner または Performance Center アプリケーション上で定義および使用可能にする HP LoadRunner および HP Performance Center とともに提供される SiteScope バージョン。
- ライセンス購入の質問 (またはさらに容量が必要な場合) については、HP の営業担当までお問い合わせください。または、[HP SiteScope 製品ページ](#)の [Contact Us] のリンクをご利用ください。ライセンスをすでにお持ちでライセンスキー・ファイルが必要な場合は、[HP Licensing for Software ポータル](#)をご利用ください。

## モニタの強化と変更

- Web スクリプト・モニタ：
  - このモニタは、Windows および Linux 64 ビット環境で実行される SiteScope でサポートされるようになりました (SiteScope は 32 ビット・オペレーティング・システムではサポートされなくなりました)。
  - このモニタは、VuGen バージョン 12.02 で作成されたスクリプトをサポートしています (VuGen バージョン 9.51 以前で作成されたスクリプトは、後方互換のために保持されます)。
  - VuGen スクリプトが SiteScope に呼び出された場合に Web スクリプト・モニタでサポートされるプロトコルは、AJAX (Click and Script) および Web (HTTP/HTML) です。
  - このモニタを使用するには、SiteScope サーバに Load Generator 12.02 をインストールする必要があります。Load Generator 12.02 は、SiteScope リリース・メディアのルート・ディレクトリにあります。
- Oracle Database, Database Counter, および Database Query モニタ :Oracle Real Application Clusters (RAC) の監視のサポートが追加されました。
- UNIX リソース・モニタ：
  - Solaris 10 1/13 および Red Hat Linux AS/ES Linux 7 の監視のサポートが追加されました。
  - Solaris ノードの監視にアップタイム・カウンタが追加されました。
- ログ・ファイル・モニタ :特別な日時の正規表現変数を使用して、日時の情報を含むログ・ファイル名を照合できるようになりました。
- メール・モニタおよびメール往復ツール :POP3 プロトコルで送信された Base64 エンコード・メッセージのデコードのサポートが追加されました。
- Ping モニタ :ユーザー・インターフェイスにタイムアウト単位の値 (ミリ秒) が追加されました。
- JMX モニタ：
  - 算術カウンタ・セクションは削除され、代わりに計算済みメトリクスが用意されました。以前のバージョンの SiteScope で算術カウンタを作成し、SiteScope のアップグレードを実行した場合、[計算済みメトリクス] パネルでカウンタを再作成してから算術カウンタを削除する必要があります。
  - BSM にトポロジを報告し、モニタのカウンタがすべて個別のサーバからの情報である場合、SiteScope は、各サーバ用に新規 CI を作成する代わりに、BSM にサーバクラスタ名を報告します。
- UNIX リモート・サーバ :UNIX リモートへの SSH 接続の順序が更新され、最初に SSH version 2 を使用してから SSH バージョン 1 を使用するようになりました。<SiteScope ルート・ディレクトリ>\groups\master.config ファイルで `_sshV2First=true` を `=false` に変更すると、接続順序を変更できます。
- VMware ホスト・モニタ :Host name フィールドが **ESX Host name** に更新され、VMware ESX サーバ名の入力先に迷うことがなくなりました。

- ・ 参照可能モニタ:参照可能モニタがカウンタ ツリーをロードできない場合に、補足情報が記載されて情報量が多くなったメッセージが追加されました。

### レポートの強化

- ・ SiteScope 管理とクイック・レポートが更新され、ルック・アンド・フィールが向上しました。
- ・ カスタム CSS ファイル (<SiteScope のルート・ディレクトリ>\conf\custom\_css\report\reports-style-custom.css) に独自の html を追加することで、SiteScope レポートの外観をカスタマイズできます。<SiteScope のルート・ディレクトリ>\groups\master.config ファイルでは、レポートをカスタマイズするために独自のスタイル設定キーを追加することができなくなりました。
- ・ クイック・レポートを電子メール・アドレスに送信するとき、レポートは電子メール本文内のテキストではなく、.HTML の添付ファイルとして送信されます。
- ・ 監査ログに新規エントリが追加され、SiteScope レポートを生成するときにパフォーマンス上の問題を特定しやすくなりました。これらのエントリにより、レポートのタイプ、レポートのターゲット、およびレポートを作成したユーザーを確認できます。

### セキュリティおよびハードニング

- ・ SiteScope は、評価保証レベル (EAL) 2+ の共通基準証明書に向け手続き中です。共通基準は国際的に認識された ISO 標準で、情報技術 (IT) 製品の評価に使用されます。
- ・ SiteScope は FIPS 140-2 準拠モードで動作するように設定できます。FIPS 140-2 は暗号化モジュールの検証プログラムで、暗号化モジュールのセキュリティ要件を定めるアメリカ国立標準技術研究所 (NIST) によって管理されています。
- ・ データ暗号化オプションのキー管理が硬化ツールに追加され、SiteScope 管理者は SiteScope 持続データの暗号化に使用される暗号化キーを変更できるようになりました。暗号化キーを変更すると、SiteScope の標準的な暗号化よりも強力な暗号化を使用できます。

### インストールおよび設定

- ・ SiteScope は 64 ビット・アプリケーションとしてのみインストールおよび実行できます。
- ・ Windows オペレーティング・システムをチューニングする場合、SiteScope 設定ツールは自動的に JVM ヒープ・サイズを 4096 MB に増やします。Linux プラットフォームでは、**/opt/HP/SiteScope/bin** ディレクトリの **start-service** および **start-monitor** スクリプトを変更することで、Java ヒープ・スペースを最大 4096 MB まで増やすことができます。SiteScope 起動のパフォーマンスを強化するには、最小ヒープ・サイズを最大ヒープ・サイズと同じ設定にすることを勧めます。
- ・ HP Operations エージェントは SiteScope インストーラや設定ツールに含まれなくなりました。代わりに、エージェントは手動でインストールおよび設定する必要があります。エージェントは、SiteScope リリース・メディアのルート・ディレクトリにあります。
- ・ システムが起動すると Linux プラットフォームで SiteScope プロセスを自動的に開始し、システムが停止すると SiteScope プロセスを停止する、自動開始処理が追加されました。
- ・ Active State Perl をコミュニティの Strawberry Perl で置き換えました。

### サポート対象環境

- サーバのシステム要件：
  - SiteScope を 32 ビットの Windows または Linux オペレーティング・システムにインストールしたり、32 ビット・アプリケーションとして 64 ビットの Windows オペレーティング・システムにインストールしたりすることはできなくなりました。SiteScope は 64 ビット・アプリケーションとしてのみインストールおよび実行できます。
  - Solaris プラットフォーム上での SiteScope 実行のサポートが廃止され、Solaris インストーラは使用できなくなりました。
  - Microsoft Windows Server 2003 上での SiteScope 実行のサポートが廃止され、利用できなくなりました。Microsoft Windows Server 2003 上で実行されるリモート・サーバの監視は引き続きサポートされます。
- クライアントのシステム要件 :以下のブラウザが認定されました。Microsoft Internet Explorer 11, Safari 8.0 (Mac OS 10.10 Yosemite) , Mozilla Firefox 31.2.0 ESR。

### 廃止されたオブジェクト

- 以下のモニタが廃止されました。

32 ビットのみ対応のモニタ (64 ビット環境で実行不可)	32/64 ビット対応のモニタ
<ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Exchange 2003 のメールボックス<sup>1</sup></li><li>• Microsoft Exchange 2003 のパブリック・フォルダ<sup>1</sup></li><li>• Microsoft Windows Media Player<sup>2</sup></li><li>• Real Media Player<sup>2</sup></li><li>• Sybase</li><li>• Tuxedo</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Exchange 5.5 のメッセージ・トラフィック<sup>1</sup></li><li>• Microsoft Exchange 2000/2003 のメッセージ・トラフィック<sup>1</sup></li><li>• Microsoft Windows ダイアルアップ<sup>2</sup></li></ul>

<sup>1</sup>Microsoft Exchange 2007 以降に移行することをお勧めします。

<sup>2</sup>現在のところ今後のバージョンでの対応予定はありません。

**注:** これらのモニタが以前のバージョンの SiteScope で設定された場合、アップグレードの実行後も SiteScope に引き続き表示されます (ただし、32 ビットのみ対応のモニタは機能しません)。これらのモニタは SiteScope 11.24 以前のバージョンでサポートされます。

- Microsoft Windows Media Player および Real Media Player が廃止されました。
- SiteScope Failover Manager (共有ドライブ・アーキテクチャ) ソリューションが廃止され、利用できなくなりました。Failover Manager を使用している場合、SiteScope サーバに可用性の問題が



生じた場合に自動フェイルオーバー保護を提供する SiteScope Failover（自動ミラーリング）ソリューションに移行する必要があります。

- [ページャ プリファレンス] パネルが廃止され、プリファレンス・コンテキストから使用できなくなりました。後方互換のために、このプリファレンス・タイプは、プロパティ `enableDeprecatedAlertActions=pager` を <SiteScope のルート・ディレクトリ>\groups\master.config ファイルに追加することで引き続き有効にすることができます。
- Microsoft Exchange 5.5, 2000, 2003. および WebSphere 5.x Application Server ソリューション・テンプレートは廃止されました。
- 旧来の SiteScope モニタおよびアラート・レポートを表示するオプションは使用できなくなりました。

#### ドキュメントの変更/強化

- **ドメイン権限:**ドメイン権限の設定について明確な説明と、ドメイン管理権限を持つユーザーとしてログインする推奨事項が追加されました。
- **イベント・コンソール:**イベント・コンソールのドキュメントに、SiteScope サーバで処理できると認定されている負荷レベル、およびアラート・システムの設定のベスト・プラクティスについて説明する「推奨容量とベスト・プラクティス」セクションが追加されました。
- **[プリファレンス] > [インフラストラクチャ プリファレンス] > [モニタ設定] の [Perfex オプション]** 設定のさらに詳細な説明が用意されました。
- SiteScope Failover をアップグレードする方法についての説明を追加しました。

# ドキュメントに関するフィードバックの送信

本書に関してコメントがある場合は、電子メールで[ドキュメント・チーム](#)にご連絡ください。電子メール・クライアントがこのシステム上で設定されている場合は、上にあるリンクをクリックすると、件名の行に以下の情報が付いた電子メールのウィンドウが開きます。

## **Feedback on SiteScope What's New (SiteScope 11.30)**

電子メールにお客様のフィードバックを追加し、送信をクリックしてください。

利用可能な電子メール・クライアントがない場合は、上にある情報を Web メール・クライアントの新規メッセージにコピーして、フィードバックを SW-Doc@hp.com まで送信してください。

お客様のフィードバックをお待ちしております。